





■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	九州技研実験棟建設工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	-------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.1 / 5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.7 / 5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.6 / 5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_20164(v.4.01)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.8
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.8	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		0.78	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		0.78	
		外構緑化指数	
		%	
		建物緑化指数	
		%	

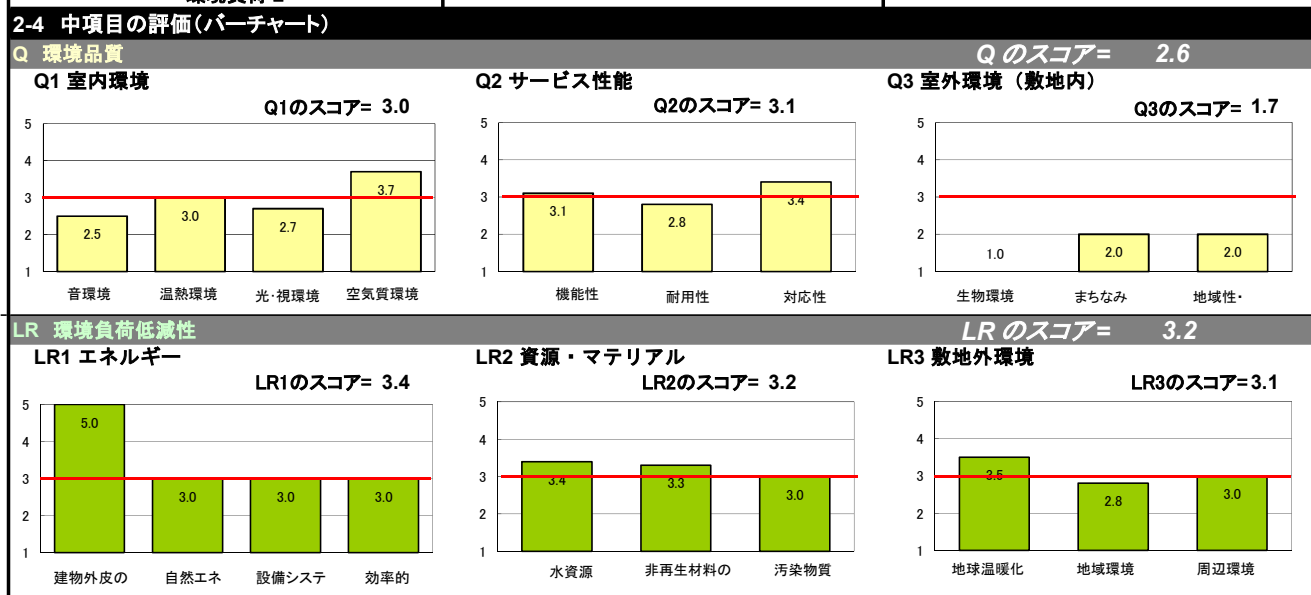
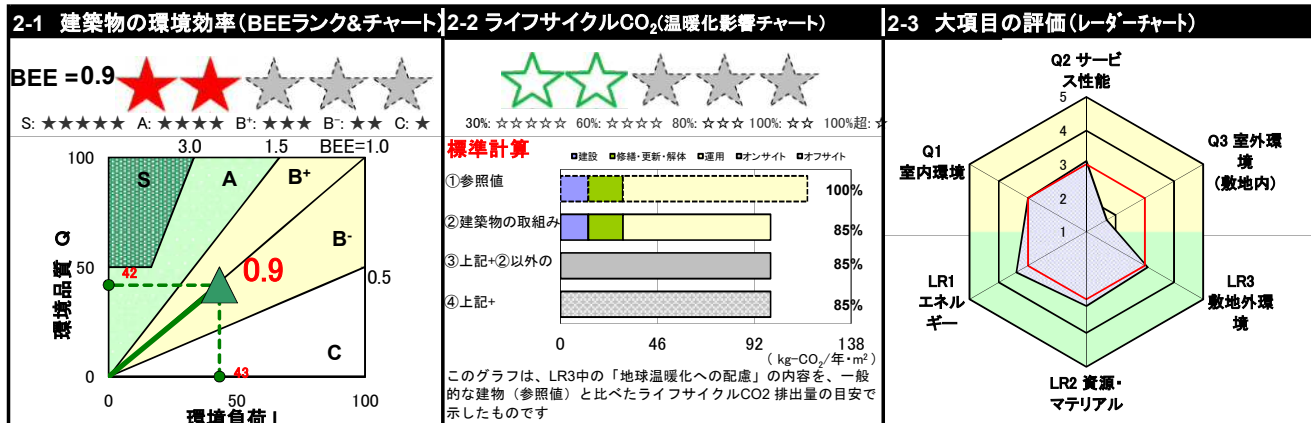
: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州技研実験棟建設工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市戸畑区大字中原46	構造	RC造
用途地域	法22条地域、市街化区域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2022年10月17日
敷地面積	3,807 m ²	作成者	高山 繁憲
建築面積	1,665 m ²	確認日	2022年10月20日
延床面積	2,782 m ²	確認者	高山 繁憲



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
日本製鉄内の実験棟。省エネルギー設備にて計画した。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
照明は最低限の照度を確保するにとどめ、換気は必要最小限の換気量とした。 建材について、ほぼ全面にF☆☆☆☆を採用。	天井高2.7m以上と快適性に配慮。	階高3.9m以上とゆとりをもたせている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特になし。	節水型便器の採用や、再利用部材(LGS、OAフロア等)を採用し、環境に配慮した。	特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
九州技研実験棟建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.40		-	3.0
1 音環境		2.5	0.15	-	-	2.5
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音	-	1.8	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	1.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	-	3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御	-	3.0	0.50	-	-	
1 室温	-	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	-	3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	-	-	2.7
3.1 昼光利用	-	3.0	0.30	-	-	
1 昼光率	-	3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策	-	2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	-	2.0	1.00	-	-	
3.3 照度	-	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策	-	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気	-	3.6	0.30	-	-	
1 換気量	-	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	開口面積:1/15以上	5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理	-	3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	-	3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ	-	3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性	-	3.5	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m以上 窓設置あり	4.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース	-	3.0	0.50	-	-	
3 内装計画	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	-	2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上に○以上を使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	-	2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.12	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮	-	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm:0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEIm:0.80	3.0	0.50	-	-	3.0
4	効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	省水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	磁器質タイル	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2 85%	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮	-	2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止	燃焼機器不使用	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制	-	2.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	